

糖尿病血液透析患者におけるインクレチン関連薬の治療効果

【目的】インクレチン関連薬を使用した糖尿病合併血液透析患者において、治療効果と副作用を検討する【方法】血糖コントロールに何らかの問題を有する糖尿病合併血液透析患者で、インクレチン関連薬を使用した 10 名(リラグルチド 6 名、DPP-4 阻害薬 4 名)を対象に、血糖値とグリコアルブミン(GA)値より治療効果を、また副作用の有無を検討した。【結果】高度の視力障害や精神科疾患の合併、高齢、独居あるいは施設入所等の条件を有する患者が 8 名。リラグルチドを使用した 6 名はインスリン治療からの変更で、4 名はインスリン治療で低血糖を生じていたが、変更後は認めなくなった。リラグルチドに変更前と比較し、3 名に GA 値の改善がみられた。副作用として 5 名に食欲低下を認めた。その後 1 名は黄斑浮腫を契機にビルダグリプチンに、他の 1 名は胃毛細血管拡張症からの出血を契機にインスリン治療に変更した。DPP-4 阻害薬使用者は副作用を認めなかった。DPP-4 阻害薬を使用した計 5 名中 4 名は単剤では血糖コントロール不十分であったため、他の糖尿病治療薬との併用が必要であった。【結論】従来の治療ではコントロール困難な血液透析患者の糖尿病治療において、インクレチン関連薬が有用な症例がある。GLP-1 受容体作動薬は消化器系の副作用に注意が必要である。